

迫力の磯群が姿を現します!!



シモリ玉

ウキ止め



▶ウキ止め、シモリ玉などは釣っているタナを分かりやすく教えてくれる大切なパーツです!!

特集

梅雨グロ「良」かど! 行こか!?

野間 辰美

《前号のおまけ1 続き》

前号の特集記事の最後の「おまけ1」でページの都合で詳しく書けなかったので、今回、下甕島の瀬々野浦エリアつながらり、本文の前に「デカクログロ」の私なりの作戦」を、少しだけ御紹介しておきます。

まず、瀬場図を見てももらえれば解る通り、この日は上げ潮がやや強く当たって来ててウネリもあったので、サラシもほどよくあり、サラシの先端部で、左からの上げ本流と右からの上げ潮の引かれ潮がぶつかり、最初は「潮ヨレ」みたいでしたが、時間とともに潮目にはつきり変わって来て、本流とサラシと引かれ潮がぶつかるスーパージョーの完成です。後は、仕掛け作りです。

風は気にならないが潮が強い感じですが、詳しくは、仕掛け図を参照して下さい。

まず、サラシ付近にマキエサを入れてエサ盗りや潮流を確認しますが、サラシとウネリであまり

と仕掛けが合っていないのか?」それなら強制的に沈めて、道糸を張って上層から下層(水深は約20mぐらいと推測)までをさぐるようにするのが、私のやり方。ここからが大事で、上層から下層までさぐった後に、今度は下層から上層をさぐりながら時間をかけて仕掛けを回収します。要は往復攻めてツケエサをさわる所をさがします。もちろんマキエサは少量ずつを足元のサラシに間断なく入れ続けます。

まず一匹目は、仕掛けを下層まで入れて止めます。約一分ぐらい。そして巻き上げます。2回巻いて止め、2回巻いて止め、その後穂先を押え込んでヒット。約40cmの口太グロ(まだふつくらしたメス)。2匹目と同じやり方でヒットしたのですが、足元の張り根にはりつかれてラインブレイ

ツケエが水先案内人!!



▲ツケエの付け方は、基本的な頭付けから・頭外し・ムキ身・逆ソリなど色々あります。今の付け方による魚の反応を読みときながら、次に続けていきます!!

です(瀬々野浦の磯は全て好きです)。

ここは、上げ潮・下げ潮ともに潮行きは遅いですが、潮の合流部がいくつも出来るので釣りやすく、クロの数も多いと感じます。また時化にも強く、風にも比較的強い磯です(両サイドに段

ク(へたくそです)。

3匹目は、下層まで落として止めている間に「コンコン」と穂先をノックしたので、竿を立てずに、道糸だけを素早く巻いて先手を取ります。アワセを先に入れると、どうしても魚があばれるのが早くなるので、アワセを入れる前に、なるべく道糸を回収して竿を立てて、自然に下層から上層に連れてくるテクニクが必要で

今の時期には、珍しい、まだふつくらボディのオス(白子を出します)。釣った時は50アップ。今一度、仕掛け回を見てももらえればわかるように、3Bのウキが完全に沈み込むようなオモリ使い

解りません。ただ、サラシがない所で確認すると、潮は左から右に、上層・中層ともに流れていきます。エサ盗りやクロは、小型が元気でマキエサに飛び付き群がっています。やつかいです。エサ盗り軍団が元気過ぎます。とり合えず朝1の仕掛けをサラシの先端付近に入れてみると、やはり、オナガの子。約20cmの一番活発なエサ盗り。

それならマキエサと仕掛けを少しずつ離してやると少しずつサイズアップ。それでも口太グロは、来ません。「居るはずなんやけどな」ならば、遠投です。今度はツケエサが付いたまま。「エッ?何か居るかも?」。サラシの先端と上げ潮のぶつかりの「ヨレ」を丹念にさぐりますが反応ナシ。約4ヒロぐらいまで。

「もつと深いのか?それとも潮

をしています。

さらに2匹目をバラしてハリスを2号に上げてやや強引に連れて来るようにしています。

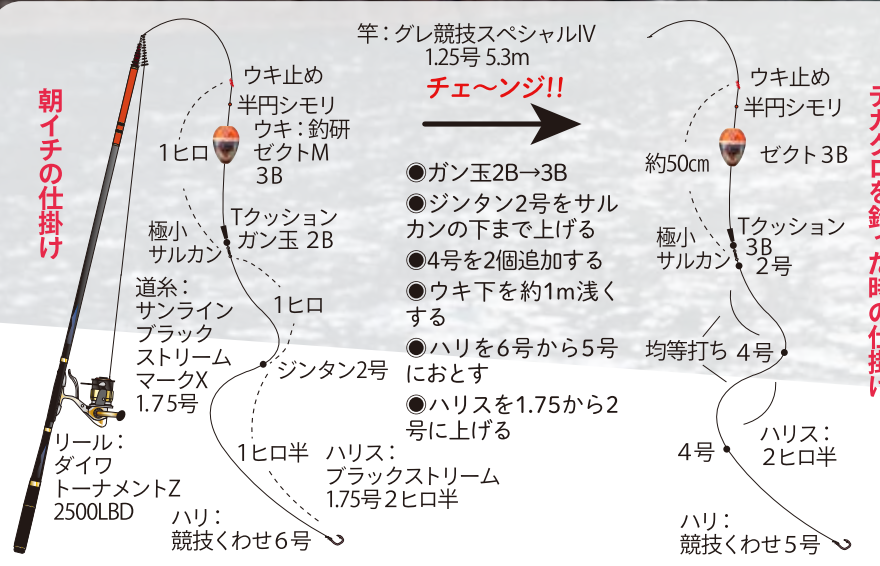
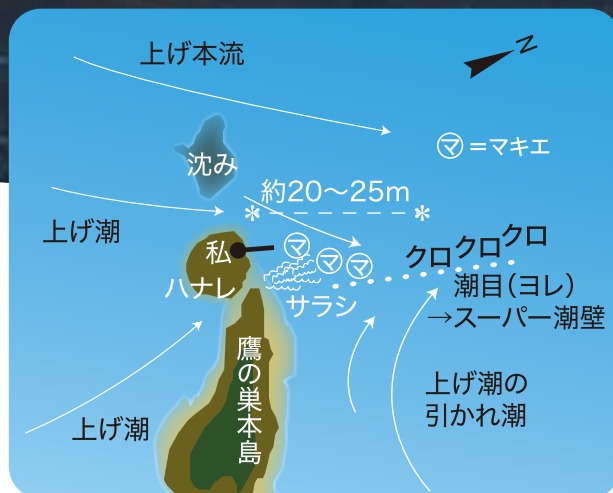
今回、強制的に沈めて、往復釣りを御紹介しましたが、道糸の張り加減やジントンの打ち方、ツケエサの有無等、難しいことが多いですが、このようなフカセ釣りもあるということで、知っておくと役に立つことがあると思います。

《下甕島瀬々野浦II》

5月30日(日)に川内港の永福丸さんで、下甕島の瀬々野浦に約一ヶ月ぶりに出かけて来ました(前回前文の通り)。

今回乗礁したのは「小神平瀬」で「大カブ」「大テンポ」を回り込んだ小さな湾の中にある足場のいい瀬で、私の大好きな磯の一つ

5月下旬も良型梅雨グロ入れ食いでした!!すみません!!本当にありがとうございました!!



前回、瀬々野浦で上げた50超